

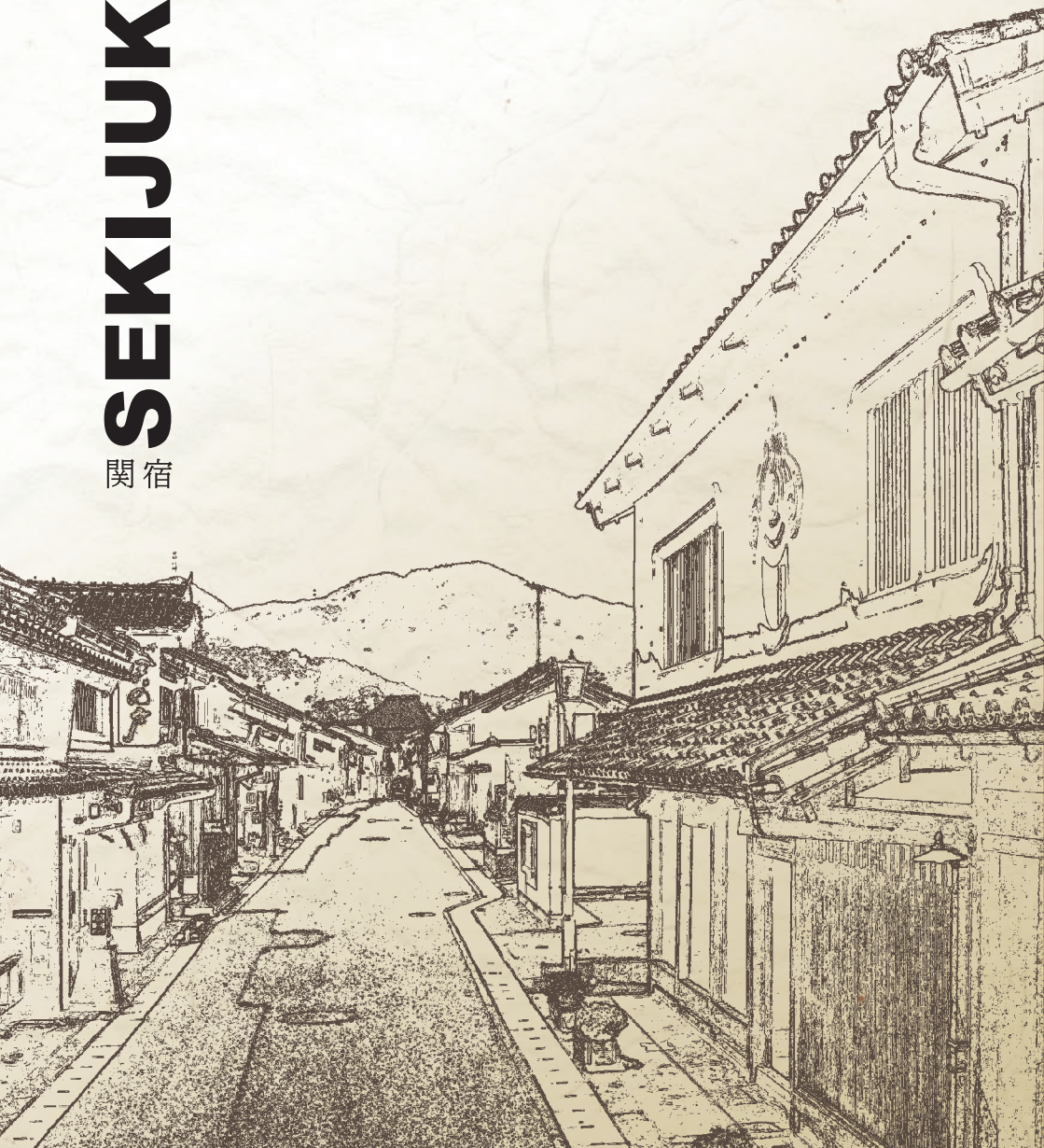


三重県亀山市 関宿 重要伝統的建造物保存地区選定40周年記念誌

DENKEN 40th Anniversary 2026

SEKIJUKU

関宿



関宿

重伝建選定 40 周年記念誌



目次

第1章 今 現在の様子を後世に残す

関宿全体上空写真	1～2p
関宿のまちなみ	3～4p
関宿百景	5～6p

第2章 想い 今の関宿への想いを記録する

市長の関宿への想い	7p
文化庁主任調査官の関宿への想い	8p
亀山市文化財アドバイザー・文化庁調査官の関宿への想い	9～10p
関宿に携わっている方々の関宿への想い	11～16p
「技」で関宿を守るみなさんの想い	17～18p

第3章 紡ぐ 保存地区40年のあゆみ 重伝建選定後の保存・整備事業を記録する

関宿マップ	19～20p
各施設の紹介	21～22p
保存修理修景事業	23～24p
生活環境・景観整備	25p
重要伝統的建造物群保存地区選定40周年記念シンポジウム	26p
関宿かるた大会	27p
文化財防火デー	28p

第4章 繋ぐ 関宿の活用と継承 様々な活用事例と次世代への継承

東海道関宿街道まつり	29p
かめやま文化年	30p
東海道のおひなさま	31p
子どもワークショップ（関小学校児童）	32p
文化財建造物活用事業	33～34p

資料編

重要伝統的建造物群保存地区とは	35～36p
関宿まちなみ年表	37～38p
関宿の歴史	39～40p
鈴鹿関跡	41～42p
関の山車	43～44p
東追分一之鳥居お木曳	45～46p
亀山宿・坂下宿の紹介	47～48p
関宿へのアクセス	49～50p

「関宿」

東海道の宿場町で**唯一**の
重要伝統的建造物群保存地区

重伝建
関宿

四十周年

40th Anniversary
2024

関宿のまちなみ



関宿は江戸時代、東海道の江戸から47番目の宿場町として賑わい
現在では東海道の宿場町としては、唯一の保存地区となっています。
街道に沿って家屋が連続し、旧宿場の規模と雰囲気をよく伝えています。

東海道の沿道：東西約 1.8 km、面積約 25ha

特定物件

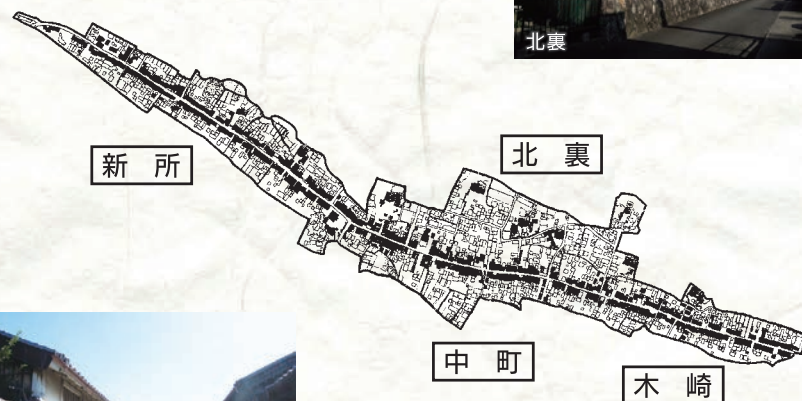
伝統的建造物 233 件（建築物：222 件、工作物：11 件）

環境物件 1 件

保存地区は街道に面する3地区（新所地区、中町地区、木崎地区）と、
街道裏の寺院群の1地区（北裏地区）に分かれます。



百六里亭からの眺め



北裏



新所



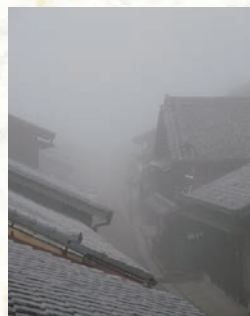
中町



木崎



関宿百景
— 雪の関宿 霧の関宿 —



関宿百景
— 夜の関宿 —



亀山市関宿伝統的建造物群保存地区 選定40周年を迎えて

文化庁文化財第二課
伝統的建造物部門
主任調査官
梅津 章子



この度は、関宿が重要伝統的建造物群保存地区に選定されて40周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。

日本における歴史的集落・町並みを保存する制度として、昭和50年に文化財保護法の改正によって伝統的建造物群保存地区（以下、「伝建地区」という。）という制度が導入されて、半世紀が経過しました。当時、文化財の保護とは国等行政が指定し、厳しい規制のもとに保護されるという考え方が主流であった中で、生活が営まれているエリアを文化財として守るのは文化財保護の転換点でもありました。日常生活が営まれる「生きた文化財」を守るためには、行政のみならず住民の方々も不安の中での出発であり、今日に至っても様々な困難を乗り越えて町並みが継承されてきたことは疑う余地もありません。法改正されて翌51年に5市町村から7地区の選定申出がありましたが、その後、毎年、1地区から3地区程度から申出があります。関町関宿（平成17年に市町村合併により亀山市関宿となる。）は昭和59年12月10日付けで柳井市古市金屋（山口県）とともに、全国で20番目に選定されました。関宿が選定された当時、先行していた市町村は全国で16市町村しかなく、各市町村も手探りの状態だったと思います。現在（令和8年1月1日時点）、全国では129地区（43道府県105市町）が選定されていますが、どの地区ひとつとして、同じ地区はなく、また保護の考え方、保存地区の活かし方、さらに向かうべき町づくりの方針はそれぞれ異なります。ただし共通していえることは、魅力的な地区は行政のみならず地域の人々が伝建地区について理解を示し、そして自らの言葉で語れる人々がいることです。

どれ一つ同じ地区はないため、比較はできないのですが全国129地区の中で関宿の特色をあえて言うなら、純粋に関宿の町並みが好きな人が多く、そして自分の言葉で建物を語る人が多いということです。では関宿にはこうした雰囲気醸成されているのか。これは40年にわたり、建物一つひとつと会話をしながら文化財の修理を行い、また関宿全体の歴史と会話をしながら、これからの関宿を作り上げた結果だと思っています。余談ですが、伝統的建造物群部門に配属されるとすぐに関宿に伺い伝統的建造物の修理、伝建地区内の一般建築の修景を現地で学ぶのが慣例です。まさしく国も関宿の修理・修景の質の高さに学んでいる、そんな地区です。

正解はない伝建地区の取り組みですが、人々が自分の言葉で語れる関宿を自慢に思っ

関宿のこれまで、関宿のこれから

～亀山市関宿重要伝統的建造物群保存地区選定40周年に添えて～

亀山市長
櫻井 義之



関宿が昭和59年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定以来、めでたく40周年を迎えたことに大きな喜びを感じるとともに、これまでまちなみ保存にご尽力いただきました多くの皆様に感謝の意を表します。

さまざまな機会に関宿に足を運んで、四季折々の風情を楽しみ、また、お住いの皆さんや関宿へ来訪された皆さんとお話しさせていただきますと、「亀山市関宿重要伝統的建造物群保存地区選定40周年」の重みを改めてひしひしと感じます。

振り返りますと、関宿のまちなみ保存は、選定前の昭和55年、旧関町において始められました。起点としては昭和4年にわが国の都市景観の先駆者である椽内吉胤氏によって当時の関町長にまちなみ保存についての提言がなされたことがあげられますが、その後の歳月を経て、山内喜久雄関町長のご英断によって伝統的建造物群保存の実現に取り組みされたことが大きな画期となったものです。ここから、今日まで地域・多面な学識者・行政が一体となって関宿のまちなみを守り、活かすために注力してまいりました。個々の伝統的建造物の保存修理、電柱の移設や路面舗装の改良などの歴史的な景観整備に加え、関宿旅籠玉屋歴史資料館や関の山車会館などの保存整備などの着実な積み重ねは列挙にいとまがありません。特に平成21年には、亀山・関・坂下三宿と東海道を基軸とした亀山市歴史的風致維持向上計画が全国に先駆けて事業認定され、三宿が一体となった整備も進めてきたところです。同時に日々の暮らしの中で、関宿の美観向上への多くの皆様のお力添えを忘れることはできません。

年を重ねるごとに美しさが磨き上げられていく関宿のまちなみのみならず、20年に一度の東の追分の鳥居造営時に行われるお木曳行事のあの熱気、毎年夏の関宿祇園まつりの優雅なお囃子と一体となった空間を醸し出す山車巡行は、関宿、亀山市という地域の枠組みを超えた魅力として、全国に、世界に発信していくものと考えております。

これから東海道五十七次の宿駅の中で、唯一の重要伝統的建造物群保存地区としての誇りを胸に、その重責を着実に果たしてまいりたいと存じます。

最後に、450年前の関の町建てから連綿と続くまちの姿と先人の想いと、現在の私たちの取り組みが、これからを担う世代に亀山市民のDNAとして受け継がれていくことを切に願っております。

関宿への想い



関宿の保存及び活用事業は、様々な方々との関わりの中で進めてきました。その中で現在でも指導・助言をいただいている亀山市文化財アドバイザー林良彦さんと、平成29年に市の職員として関宿に携わっていただいた文化庁の稲垣智也調査官からお話をいただきました。



元文化庁主任調査官
亀山市文化財アドバイザー
林 良彦さん

〈関宿への想い〉

これだけの大規模な文化遺産に当初からかわるべきことができたことは大変幸運であったと思います。関では私以後一貫して建築技術者が責任を持って事業を行ない、当初必ずしも整っていないかった町並み景観が徐々に往時の姿を取り戻してゆく40年間絶えず行ってきた事業の成果は全国に誇ることができるとおもいます。

〈関宿をこれからも守り保存していくために必要なこと〉
保存事業にかかわる技術については、故あって現状では技術職員が配置されていない状態ですが、設計者、施工者の努力によって、事業を行う上での技術的な問題は一定克服された状態であると認められます。ただ、この状態をもう1段階高み上げるためには技術的な発信をする能力のある担当者が必要と考えます。

事業の進捗とともに来訪者の数も増え、それともにお店も増えつつあるのが現在の状況かと思えます。別に観光開発をするのが事業の目的ではないのですが、これだけ町並みが整ってくると、より多くの人々が訪れ、東海道の宿場の雰囲気を感じてもらいたいと感じます。また、交流人口の拡大によって地域の経済がより潤うようになれば事業の進捗がよりスムーズになるのではないかと考えます。しかるに私が現在住む奈良を含む関西方面では、比較的距離が近いにもかかわらず関宿に関する情報はほとんど皆無といってよいほどです。なかなか三重県の県北には他に目ぼしい観光地がないというハンディがあるのかもしませんが、関宿を目的の地として来たいだけという、より一層の町並みの整備を行うとともに、もう少し観光地としてのPRをしてよいのではないのでしょうか。

〈関宿との関わり〉

関宿は昭和59年に重伝建に選定されましたが、私は保存事業が始まる昭和60年4月に建築職として旧関町に採用され、重伝建を担当することとなりました。初代の担当者ということになります。以後平成2年度まで5年間修理修景事業の設計監理を手がけました。初めての事業ということで、住民、私自身も町の行政対応としてもいろいろ戸惑っていた印象がありましたが、周囲の皆様方のご理解で何とか乗り切ることができました。



文化庁文化資源活用課修理企画部門
調査官 稲垣 智也さん

文化庁文化資源活用課修理企画部門 調査官 稲垣智也様におかれましては、平成29年度に文化庁から出向という形で亀山市職員として関宿に携わっていただいております。その際のご経験を踏まえ、関宿の魅力についてお話をいただきました。

関宿の魅力について教えてください

6時の防災無線を聞き布団から這い出てカーテンを引くと、朝日に照らされたギザギザの鈴鹿山脈が目飛び込み、見事なものだなあと歯磨きをして一日が始まります。

新所から中町三番町、家並の隙間を縫って、福蔵寺や関神社の前で軽く手を合わせ、四番町に木崎から北裏を抜けて、家庭菜園の手入れをする地元の方に挨拶しながら支所に登庁。日によっては地蔵院や誓正寺、長徳寺まで足を延ばします。

何気ない風景のひとつひとつが、住民の皆さんによって、40年以上の月日をかけて世代を超えて磨き抜かれた逸品です。険峻な鈴鹿峠を越えるお客さんへのおもてなしであふれた町並み。ただ建物が密集して建っているだけではなく、学術的な裏付けのある、修理・修景事業が積み重ねられてきたからこそ、本物の持つ価値。

観光客目線だけでなく、住人ではじめて理解できた、私にとっての関宿の魅力です。



稲垣調査官が選ぶ
関宿一押しビュースポット

関宿への想い 記念誌特別インタビュー

おもい

関宿の保存及び活用に携わっていただいている地元の団体の代表の方々に、それぞれのお立場から関宿に対する想いなどをお話いただきました。



関宿案内ボランティアの会
会長 倉田 文男さん

特定非営利活動法人
亀山文化資産研究会
会長 中浦 豊子さん



東海道関宿まちなみ保存会
理事長 増亦 肇さん

関宿「関の山車」保存会
会長 浦野 明博さん

以後敬称略

関宿の魅力とはどんなところですか。



浦野…増亦理事長もお話いただきましたが、関宿の魅力は、宿駅制度が始まり、その当時の姿、町並みを現在まで継承してきた「人々」だと感じています。関宿は、商売人が多い観光地としての町並みではありません。「人が住みながら町並みを保存していく」その想いは、「関の山車」でも同じだと思いますし、その想いも関宿の魅力の一つであると思います。



倉田…私が案内ボランティアとして活動する際、建造物以外にもそこに住む人々の生活も理解していただき、「まち」として見てもらっています。「人が住みながら町並みを保存していく」という理念も合わせて理解いただき、ただ古い町並みがあるという訳ではなくて、人々の営みも継承しているということ、それが関宿の魅力であると思いますので、その想いを来訪者に伝えています。



増亦…全国の様々な歴史的な町並みを見てきましたが、約1.8キロメートルという長い距離の中、これだけの歴史的建造物が残っているところは旧東海道の宿場町でも関宿だけですね。観光地と呼ばれるところとは一線を画す町並みが関宿の魅力であります。また、それは重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから40年、先人の努力と町並みにお住まいの方々のご理解があって、継承されているものでもあります。



中浦…私としては、関宿の「静けさ」が一番の魅力であると感じます。約1.8キロメートルと長い宿場町で歴史的な建造物が立ち並び、関宿を歩くだけで精神的な満足感を得ることができます。そういった意味での「静けさ」が唯一無二の魅力であると思います。

浦野

関宿「関の山車」保存会では、毎年園児対象の曳き唄練習や小学校でのお雛体験などの伝承活動を実施し、子どもたちの関の山車への関心や愛着、自分たちが主体であるという思いを伝え、担い手不足の解消に努めているところです。

増亦

住む人もそうですが、歴史的な建造物の修理や修景が出来る建築士や大工の数も減っているのが現状です。若い建築士等でも歴史的な建造物に魅力を感じている方もいらっしゃるのですが、先人からのメッセージを受け取るような体制づくりが今後必要になってくると思います。

中浦

亀山文化資産研究会でも次世代の子どもたちへのシビックプライドの醸成として、地元小学生に関宿をもっと知ってもらうために昨年から「子どもワークショップ」を開催しています。子どもワークショップでは、関宿の修理修景事業などに携わる大工等の関係者と子どもたちを引き合わせ、子どもたちが関宿というある意味特殊な建造物の修理方法について、直接質問できる機会を設け、関宿の歴史だけでなく、建物についても学び興味を持ってもらい、担い手の育成に繋がればと考えています。



関宿をこれからも守り保存していくために必要なことはどんなことだと思いますか。

浦野

町並みを残すということは、今住んでいる方に住み続けていただくとともに、関宿に住みたいという方を迎える必要もあります。一方で現代は車社会であり、関宿の町並みは道が狭いので生活しにくい部分もあります。町並みとしては残しつつも、新しい方に住んでいただくことも必要になる中で、時代に即した生活環境の整備を行う必要があると思います。

倉田

空き家や鉄筋コンクリート造の建築物が増えてくると関宿の町並みが崩れてしまいます。関宿にお店を出す方が増えつつある中で、関宿の良さや魅力を理解した上で移住等していただくということも必要になってくると思います。また関宿だけでなく、鈴鹿関跡や鈴鹿峠など重層的な関の魅力を発信する必要があると思っています。

増亦

近年超高齢化社会とも言われ、様々な団体で若い世代が減少しつつあり、それは関宿でも同じです。その為、今住んでいる子どもたちに関宿への愛着や故郷の心を持ってもらい、住み続けてもらうことがこれから必要になってくると思います。先人たちが受け継いできた、「関宿の古い町並み」を後世に伝え繋げていく「その理念や想いを子どもたちに引き継いでいくこと、

中浦

関宿の建造物を解体してみると先人からのメッセージが伝わってきます。例えば、関の山車会館では、主屋の大黒柱に明治時代の火事の様子がかかれていたり、旧落合家住宅は建物の構造自体が非常に特殊な建築となっています。そういった建造物に触れることは建築士としても非常に良い経験となっています。



歴史あるまちなみを守るための市の取り組み

伝建地区内に暮らす住民にとっては、文化財であるが故に、現状変更行為の規制がある中、生活しながら保存することには不便があると想像できます。地域の歴史文化を保存すること、現代的な生活を確保していくことの両立は容易ではなく、住民の地域への愛着、歴史文化への深い理解などの積み重ねにより、調和のある美しいまちなみが維持されています。

国の重伝建選定から40年を経過した現在、伝統あるまちなみを未来へつなぐために、伝統的建造物などの修理修景事業を今後も計画的に進めていきます。また、住民の皆さん、保存団体の皆さん、関宿の未来を担う子どもたちとともに、東海道の宿場町で唯一の伝建地区「関宿」のさらなる保存と活用に努めていきます。

文化課
まちなみ文化財グループ



特定非営利活動法人
亀山文化資産研究会
会長 中浦 豊子さん



東海道関宿まちなみ保存会
理事長 増亦 肇さん



関宿案内ボランティアの会
会長 倉田 文男さん



関宿「関の山車」保存会
会長 浦野 明博さん

ご協力いただいた代表のみなさま

「技」で関宿を守るみなさんの想い



伝統的な建造物の修理は、受け継がれてきた技法を用いて行われます。「技」でまちなみを守るみなさんの関宿への想いをお聞きしました。

左官

関宿のまちなみ保存には、土壁や漆喰壁を塗ることが多く、最近の建築様式ではなかなか経験できない仕事をさせていただいています。関宿は長い年月をかけて修理を重ねて今日のまちなみに生まれ変わってきました。その結果、多くの方々が訪れていただけたようになったことは素晴らしいことだと感じています。私は関で生まれ育ち、自宅も街道沿いにあります。これまでもそうでしたが、住民、行政、関係する方々など、多くに人たちが一体となって協力していくことで、この綺麗なまちなみがずっと残っていくことを願っています。



〔左官〕水谷長位（おさのり）さん



〔板金〕小林健治 さん

板金

まちなみ保存の中で、昔ながらの銅製の雨どいの取り換えや、庇などへ銅板を折り曲げて取り付ける修理に携わらせていただいています。関で生まれ育っていく中で、通りの電柱が車で通る時など邪魔で道も狭く感じていました。が、平成2年に電柱が撤去されたことは画期的な出来事だったと思います。今は飲食店、みやげ物売店も増えて、全国各地からさらにはインバウンドの外国人観光客も多く訪れていただくようになったことは素晴らしいことだと思います。まちなみでの人々が笑顔で暮らしている中で、来訪された方々とのふれあいがあることが関宿の魅力なのだと思います。この関宿を守り伝えていくためには、来訪者の声をよく聴いて、それを保存会等の関係団体や地域住民と共有して、みんなが集まって建設的な意見交換をしてはどうでしょうか。来訪者の声を聴くために、まちなみの主要ポイントに目安箱をおいて投函してもらうというのと思っています。投函していただいた方に抽選で関宿グッズを進呈するなどの特典があればきっとたくさんの方の声をいただけるのではないのでしょうか。

大工

幼いころから関宿を身近に感じて育ってきました。地藏院の火渡り、祇園夏まつり、街道祭りなどたくさんさんの季節を感じる行事があり、特に夏まつりの山車は、子どものころ大太鼓を叩き、今は曳き手になっています。いつしか自分の子ども達も一緒に太鼓や笛、曳き手を担うようになりそうです。その山車や街道沿いの家屋修理に携わっています。

関宿の魅力は、たくさんさんの家屋が修理され、きれいに整備されつつある中で昔から変わらない風景を今に残していることだと思います。風情が感じられ、時間の流れがゆっくりと感じるような空間の中で、観光地であるにもかかわらず、毎日の暮らしが営まれ関宿自体が生活の一部となっていることです。

古い家屋を修理していく職人さんの技術も必要ですが、何よりも、その家屋に住み続けていただくことがまちなみの保存につながると思います。たくさんさんの人々の力によって、この関宿は維持されています。だからこそ訪れる人たちは日常から離れて昔の空間の中で癒されてほしいと思います。これからも関宿がより一層魅力あるまちとなるように、その思いが次の世代にも受け継がれることを願っています。



〔大工〕宮崎直樹 さん



〔大工〕金谷彰久 さん

関宿には、今も人々が日々暮らしている中で、古いまちなみの修理を重ねて、生き続けているまちであることが大きな魅力だと感じています。祖父や父の大工仕事を見て育ったので、私自身も関宿の保存に関わっていきたくと思っています。私の仕事は手間もかかりますし、なかなか評価されない時もあります。でも、施主さんからお褒めをいただいたり、次世代の人たちが住みたいと思っていたりするようなら、そんな修理を行っていきたくです。このためには、江戸時代の建物の構造、その後の明治から昭和に行われた修理の技法などよく学び、これを現代の建築技術に付け加えていくことが必要だと考えています。

【公開活用施設】



旧落合家住宅



旧田中家住宅



【関宿散策拠点施設等】



木崎町散策拠点施設



百六里庭 (眺関亭)



地蔵町散策拠点施設



西の追分休憩施設

【関宿伝統的建造物群保存地区資料館（有料施設）】



関の山車会館



関まちなみ資料館



関宿旅籠玉屋歴史資料館



関宿の施設いろいろ
地区内では、資料館・公開活用施設・散策拠点などの様々な施設を整備し、公開・活用を図っています。



保存修理修景事業



地区内では、計画的に伝統的建造物の「修理」と伝統的建造物以外の建造物の「修景」が同時に進められています。

【修理工事】

伝統的建造物を対象に、外観や主要構造部を建築当初の姿に復します。
また、文化財建造物としての価値を保ちつつ、現代の基準に合わせた構造補強や防火性能の向上も同時に行います。



修理後



修理後



修理後



修理前



修理後



修理前

【修景工事】

非伝統的建造物を対象に、地区の歴史的風致や保存計画に定められた基準に従って、外観を周辺の歴史的な景観と調和させます。



修景後



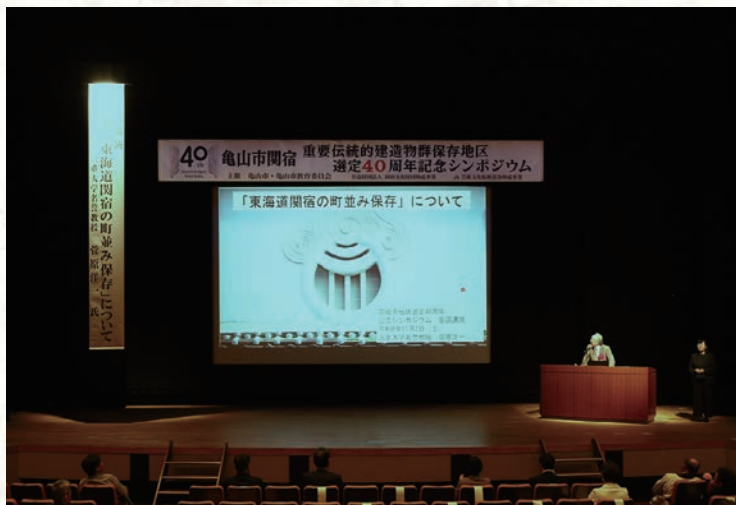
修景前



修景後



修景前



重伝建選定40周年を記念し、令和7年11月2日に亀山市文化会館で記念シンポジウムを開催しました。



重要伝統的建造物群保存地区 選定40周年記念シンポジウム



三重大学名誉教授の菅原洋一氏による基調講演をはじめ、関宿のまちなみ保存に携わる住民や文化庁調査官などによるパネルディスカッション、また、関宿保存団体による芸能披露のほか、長年、保存活動に尽力された功労者への感謝状贈呈を行いました。

さらには、「子どもワークショップ」の成果発表や「関宿かるた大会（大人の部・子どもの部）」の上位入賞者の表彰も行いました。

【無電柱化（電柱移設）】

平成10年（1998年）と平成12年（2000年）に実施



【地道風カラー舗装（道路舗装）】

平成4年（1992年）と令和5～6年度（2023～2024年）に実施



【整備前の関宿（1983年頃）】



生活環境・景観整備



伝統的建造物等と一体をなす歴史的風致を維持し、住民の生活向上にも配慮し、保存地区の環境整備を行っています。

文化財防火デー

つむぐ



亀山市関宿伝統的建造物群保存地区の「警防計画」に基づき、文化財を火災・震災その他の災害から守るとともに、日本国民の文化財愛護思想の高揚を図る目的で、地域住民と共に年1回実施しています。



国の重要文化財である「地蔵院本堂・鐘楼・愛染堂」が在する関地蔵院で令和7年1月18日に実施。



関宿かるた大会

つむぐ



まちなみ保存の意識向上を図るため、「大人の部」と「子どもの部」を令和6年度に初めて開催しました。また、上位入賞者については、選定40周年記念シンポジウムにおいて表彰を行いました。令和7年度以降についても継続して開催します。

【大人の部】



【子供の部】





亀山市文化大使「林家菊丸」街角落語
(かめやま文化年実行委員会事業)



亀山市文化大使「真路まなみ」街角コンサート
(かめやま文化年実行委員会事業)



正藍染を体験しよう！
(かめやま文化年実行委員会事業)



大阪交響楽団メンバーによる街角コンサート
(かめやま文化年実行委員会事業)

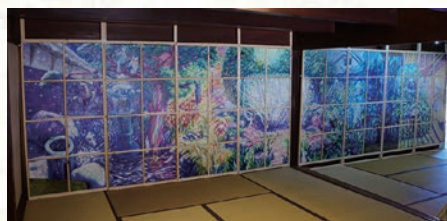
亀山市では、3年に1度、文化芸術を生かしたまちづくりを推進するため、「かめやま文化年」と称し、様々な取り組みを行っています。「かめやま文化年2024」では、「まちがにぎわい子どもがわらう」をキャッチコピーとして、コロナ禍で減少した子どもたちの文化芸術活動に参画する機会の充実に努めつつ、文化の継承と創造を育む事業を実施し、まちのにぎわいや魅力の創出に繋げました。

かめやま文化年



かめやま文化年実行委員会特別企画「亀山トリエンナーレ2024」特別展示

亀山トリエンナーレ実行委員会と連携し、個性豊かな現代アート作品で、関宿のまちなみを彩りました。



関宿街道まつりは、昭和61年から続くお祭りです。メインとなる「宿場大行列」は、仮装行列が毎年趣向を凝らしてまちなみを練り歩くもので、祭り当日は、いにしへの宿場町の風情が現代に蘇ります。他にも、関の山車の展示やお囃子体験など様々な催しが開催され、宿場町関を呼び起こす市民参加型の楽しいイベントとなっています。

関宿のまちなみの良さを地域内外の方に知ってもらうことで、幅広い年代でのまちなみ保存の意識向上と関宿の活性化を図っています。



東海道関宿街道まつり





次世代を担う子どもたちの愛着や誇りの醸成を目的として、まちなみ保存の歴史や技術、また関係者の想いを知ってもらい、自らが暮らすまちに関心を持ってもらうこと目的に「子どもワークショップ」を初めて実施しました。

※残していきたい関宿をテーマに、「NPO法人 亀山文化資産研究会」や「東海道関宿まちなみ保存会」の協力のもと、関宿の修理・修景に携わる職人や保存活動に取り組む会員などを講師に迎え、関宿のまちなみの保存について学習しました。

子どもワークショップ（関小学校児童）



早春の関宿での「ひなまつり」を巡ってみませんか。



東海道のおひなさま



東海道のおひなさまは、毎年2月初めから3月3日のひな祭りまで、関宿の約45箇所（江戸、明治、大正、昭和、平成の様々なひな人形を展示しています。また、地域特産等が当たるデジタルスタンプラリーも開催しており、関宿に春の訪れを告げる風物詩となっています。

文化財建造物活用事業



関宿のにぎわいを取り戻すため、国の重要文化財建造物「関地藏院本堂」等の活用を軸に地域の活性化を図りつつ、関宿とその周辺のにぎわいを創出していくため、亀山市観光協会、市民団体等が連携を図りながら活用事業を展開しています。



キャンドルナイト



竹あかり



絵手紙展示会



盆栽展示会



ちぎり絵展示会



ひなまつり落語



吹奏楽コンサート

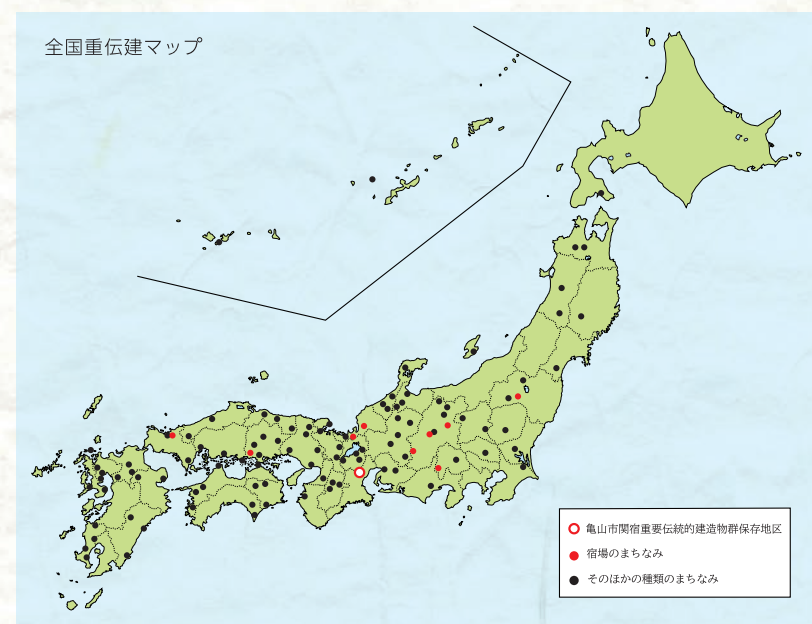


オカリナコンサート



古代において全国の道の一定区間ごとに休泊や人馬の引継ぎを行うための駅を設けて、人や物資の往来、文書の伝達にあたっての利便を図る伝馬制度が整えられていました。伝馬制度は長い年月の中で廃れていきましたが、各地で必要に応じてその機能は維持されてきました。1600（慶長5）年、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、翌年その制度を復活させ、江戸と京都の間の東海道のまちなみに宿駅の役割を付加しました。これが東海道五十三次で、京都大坂間の四宿と併せて五十七次と称されることもあります。

関宿は、江戸から数えて47番目の宿となります。



伝統的建造物群保存地区とは、我が国の歴史の中で形作られてきた町や村の姿が受け継がれてきた地区のことです。このうち、周辺の環境とひとつとなつてわが国の歴史的な風景として特に価値が高い地区を重要伝統的建造物群保存地区として国が選定しています。令和8年3月現在で全国で106自治体129地区が選定されていますが、宿場町としての選定はわずか10か所、かつての東海道五十三次の宿場町では関宿だけが選定を受けています。

重要伝統的建造物群保存地区とは





	10	1998	百六里庭・眺関亭竣工 東海道53次シンポジウム関宿大会開催
	12	2000	重伝建地区内の無電柱化完成 「関宿案内ボランティアの会」発足 関宿保存会文化財保護法50周年記念表彰
	13	2001	西追分休憩施設竣工 東海道400周年記念事業を開催
	14	2002	地蔵町散策拠点施設竣工
	15	2003	木崎町散策拠点施設竣工
	16	2004	重伝建選定20周年記念事業実施 関宿「関の山車」保存会 発足 関宿高札場復元整備
	17	2005	亀山市・関町が合併 国土交通省「手づくり郷土賞大賞」受賞 第1回スケッチコンクール開催（令和2年まで） 鈴鹿関西辺築地跡を発見
	18	2006	関宿保存会「三重県文化功労賞」受賞 関宿保存会を「関宿保存会」に改称
	19	2007	関宿保存会、NPO法人化に向けて「東海道関宿」に改称
	21	2009	「亀山市歴史的風致維持向上計画」が歴史まちづくり法に基づく全国第一期の認定 保存地区内の市税の特例に関する条例を施行 「関宿・周辺地区にぎわいづくり補助金交付要綱」を施行
	22	2010	「東海道のおひなさま亀山宿・関宿」開始
	23	2011	亀山市景観計画に基づき関宿周辺に「景観形成推進地区」「眺望景観重点地区」を指定
	24	2012	「田中家住宅」市有形文化財に指定
	25	2013	中部歴史まちづくりサミット開催
	26	2014	重伝建選定30周年記念シンポジウムを開催
	27	2015	東追分一の鳥居建て替えのためお木曳
	28	2016	ジュニア・サミット in 三重でG7各国の高校生が関宿を訪問
令和	元	2019	関の山車会館開館
	3	2021	鈴鹿関跡が国史跡に指定
	6	2024	重伝建選定40周年記念シンポジウムを開催 重伝建選定40周年記念事業として関宿かるた大会や子どもワークショップを開催 「東海道関宿まちなみ保存会」が文部科学大臣より地域文化功労賞を受賞

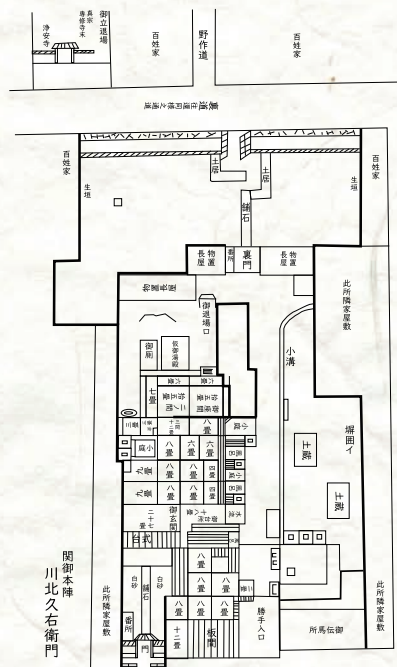
元号	年	西暦	事 項
		672	鈴鹿関の名が初めて記される（日本書紀）
天平	13	741	関地蔵院創建という（関地蔵縁起）
天正	11	1583	関盛信、関の町割を行うという（九々五集）
慶長	6	1601	関が宿駅に定められる（九々五集）
寛文	3	1663	関宿大火110戸焼失（味噌屋火事）
文政	8	1823	関宿大火45軒被災（真弓火事）
明治	5	1872	宿駅制の廃止
大正	9	1920	地蔵院護摩堂（愛染堂）国の特別保護建造物に指定
昭和	4	1929	都市研究者の椋内吉胤、関町長に町並み保存を進言
	36	1961	群馬大学工学部教授の下田功、関町長に町並み保存を進言
	51	1976	朝日新聞社記者の石川忠臣、関町長に町並み保存を進言 日本ナショナルトラストにより町並み調査を実施
	54	1979	「関町の町並み保存会」発足 「関町伝統的建造物群保存地区保存条例」制定
	55	1980	関町により伝統的建造物群保存地区の調査
	57	1982	「関町関宿伝統的建造物群保存地区」が都市計画決定 「東追分・西追分」三重県史跡指定
	59	1984	全国で20番目の重要伝統的建造物群保存地区に選定
	60	1985	「関宿まちづくりシンポジウム」を開催
	61	1986	「街道祭まつり」開始
	63	1988	関まちなみ資料館開館 保存地区内の一部を無電柱化 地蔵院本堂・鐘楼が重要文化財に指定
平成	元	1989	建設省「手づくり郷土賞」受賞
	3	1991	全国伝統的建造物群保存地区協議会総会を開催 「関の山車」関町有形民俗・無形民俗文化財に指定
	4	1992	保存地区内の旧東海道の地道風カラー舗装
	6	1994	重伝建選定10周年記念事業「街道・町並みシンポジウム」を開催 「三重県さわやか県土づくり景観賞」受賞 「旅籠玉屋」・「延命寺山門」関町有形文化財に指定
	7	1995	東追分一の鳥居建て替えのためお木曳 建設省「歴史国道」に認定
	9	1997	関宿旅籠玉屋歴史資料館開館 歴史的景観都市協議会を総会

関宿まちなみ年表





関宿の歴史



川北本陣平面図



東海道五十三次 本陣早立

近世の関宿は、東海道と伊勢別・大和街道との分岐点として畿内・西国からの伊勢参詣者をはじめとして多くの通行でにぎわいましたが、街道や宿駅機能維持のため関宿や近郷の負担も大きいものでした。

近代にいたって宿駅制度の廃止と、1890(明治23)年の鉄道開通により、止泊から物資運搬を軸とした宿場町から旧関町の中核へと変容しました。また、1952(昭和27)年に国道1号の付け替えが行われたことが、古いまちなみが良好に残った要因の一つとなっています。



「寛文十一年関宿絵図」(川北憲吾氏蔵)



「伊勢参宮名所図会」二 東追分



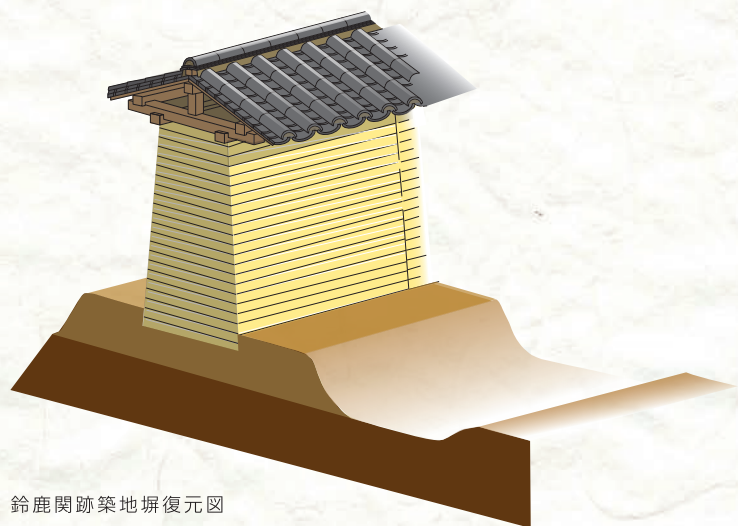
「伊勢参宮名所図会」二 地藏院

関宿の魅力は、古いまちなみが残されているだけではありません。そこには古代から連綿と続く人々の営みと交通の要衝としての特質が一体的に折り重なって今日のまちなみを醸し出しているところにあります。

関の地名は古代にこの地に置かれた鈴鹿関に由来します。鈴鹿関は延暦8(789)年に廃止されますが、東西日本をつなぐ交通要衝の立地から何らかの宿駅機能は維持されていた可能性があります。

中世後半には新所と木崎の地名がみられ、これらと地藏院の門前に成立したまちが関宿の母体となったと考えられます。江戸時代前半は「関地藏」と呼ばれていたことはこの名残といえるでしょう。





鈴鹿関跡築地塀復元図

「鈴鹿関」は、不破関（岐阜県関ヶ原町）・愛発（福井県敦賀市）関と並んで、律令三関と呼ばれる古代に設けられた3つの関のひとつです。現在はその西辺にあたる築地塀跡に一部が確認されています。「日本書紀」では672年の壬申の乱の際には鈴鹿関が存在していたと記されていますが、実際は8世紀の初めに整備されたと考えられ、延暦8（789）年に廃止されています。古代三関は、都にいる皇族や有力貴族が東国に赴いてが謀叛を企てることを防ぐ軍事施設として整備され、農民が逃亡するのを防ぐ役割もあったと考えられています。これらの機能は交通の歴史だけではなく、古代の政権、統治のありかたに直結するもので、鈴鹿関跡はわが国の古代史を解明する上で欠かすことのない遺跡として、令和3年3月に国史跡に指定されています。



鈴鹿関西辺築地塀跡（第一次調査）

鈴鹿関跡第1次調査出土遺物



鈴鹿関跡出土瓦（奈良時代中期の重圏文軒丸瓦）

鈴鹿関跡

関の地名の由来となっている古代の鈴鹿関。関のまちなみが形作られる根底となる、関の歴史文化の重層性を示す象徴でもあります。





関の山車

関宿の夏を彩る「祇園夏まつり」。関宿の総社である関神社の祭礼として、4台の山車が祇園囃子を奏でながら町屋の中を巡行します。伝統的なまちなみと一体となった有形無形の歴史文化資産です。



舞台回し



北裏山車



山車の巡行



四番町山車



木崎山車



三番町山車



三番町山車



北裏山車



四番町山車



木崎山車

「山車」と書きますが、地元では「やま」と呼びます。いづろからこの祭礼が行われているのか定かではありませんが、現存する山車の部材などに19世紀前半の銘がみられます。山車の軸部の上部が回転する構造となっており、町

の辻や主要な場所では「舞台回し」といって勢いよく山車を回します。かつては16台もの山車があり、これ以上は増やせないことや軒先いっぱい山車が巡幸することから「限度いっぱい」を意味する「関の山」の語源となったといわれています。





東追分一之鳥居お木曳

関宿の東端、東の追分は、東海道と伊勢へ向かう伊勢別街道の分岐です。ここに建てられた鳥居は伊勢国内の伊勢神宮の一の鳥居です。かつての旅人たちも特別な思いでこの鳥居をくぐり、またここから伊勢神宮を遥拝したことでしょう。関の人々にとってもこの鳥居は特別の思いを持っています。



竣工した東追分一鳥居



伊勢神宮内宮宇治橋南詰鳥居



東海道五十三次名所図会に描かれた東追分



明治時代の東追分一の鳥居



平成 27 年お木曳



鳥居くぐり初め式

東追分一の鳥居の
除幕

東追分一の鳥居は、少なくとも1930（昭和5）年以降は伊勢神宮内宮の式年遷宮で建て替えられた内宮宇治橋南詰の鳥居の旧材の下賜を受けて建て替えられています。この旧材は、宇治橋南詰鳥居となる前は内宮正殿のもっとも重要な部材である棟持柱を式年遷宮後に転用されたものです。東追分一の鳥居の建て替えにあたっては、下賜されたご用材を地域のみなさんでお木曳

して、関宿内の巡行が行われてきました。2015（平成27）年の鳥居建て替えにあたっては、その前年の式年遷宮で建て替えられた宇治橋南詰鳥居、すなわち1974（昭和49）年式年遷宮における内宮正殿の棟持柱を関に迎え入れ、新調した曳車2台で盛大にお木曳が執り行われました。20年に一度の伊勢神宮の式年遷宮後に行われる東追分一の鳥居お木曳は、関の人々と伊勢神宮との深いつながりを体現したもののなのです。





亀山宿・坂下宿の紹介

亀山市内には、東海道五十三次の宿が三か所あります。関宿の他には江戸から数えて46番目の宿である亀山宿と48番目の宿の坂下宿です。近接する宿でありながら、3つの宿はそれぞれ違った個性を見せています。



旧亀山宿京口前の町屋



京口門古写真(亀山市歴史博物館所蔵)



亀山雪晴(保永堂版) 亀山市歴史博物館蔵

亀山宿

亀山宿は亀山城を核とした武士のまちである城下と一体となっており、城下町ならではの屈曲した道筋や江戸口門・京口門といった城下を守る機能がまちの随所に見られます。町屋の占有面積が少ない中で、亀山藩領の中核として多様な職種の町屋が建ち並び、関宿の本陣2、脇本陣2、旅籠42軒に対し本陣1、脇本陣1、旅籠は21軒しかありませんでした(「東海道宿村大概帳」)。



昭和初期の旧亀山宿
(三本松東から)



昭和初期の旧亀山宿
(三本松西から)



現在の旧坂下宿



「伊勢参宮名所図会」二 坂下宿大嶽本陣



「東海道名所図会」二 坂下宿大竹本陣



現在の鈴鹿峠



坂之下筆捨嶺(保永堂版) 亀山市歴史博物館蔵

坂下宿

坂下宿は東海道の難所の一つである鈴鹿峠を控え、古くは豪族群行の鈴鹿頓宮がおかれるなど峠越えの起点・帰着点としての役割を担っていました。このため近世においては関や亀山よりも多い本陣3・脇本陣1・旅籠48軒が置かれていました。ただ、山麓という立地もあって、1650(慶安3)年の大水害によって、片山神社近傍にあった坂下宿はことごとく押し流され、翌年にその当方に宿全体の移転を余儀なくされています。



名古屋方面から	JR 関西線	亀山行、亀山から加茂行乗り換え関駅下車
津方面から	JR 紀勢線	亀山行、亀山から加茂行乗り換え関駅下車
京都方面から	JR 草津線	柘植行、柘植から亀山行乗り換え関駅下車
奈良方面から	JR 大和路線	加茂から亀山行乗り換え関駅下車



